

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：32702

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2023

課題番号：19K23169

研究課題名（和文）海外派兵と政党政治—日本とドイツを例にして

研究課題名（英文）Sending Troops Overseas: How Party Politics matters in Japan and Germany

研究代表者

高島 亜紗子 (Takashima, Asako)

神奈川大学・人間科学部・非常勤講師

研究者番号：00850603

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は海外派兵を巡る政府の政策について、政党政治の観点から新たな分析を加え、海外派兵の増減が何によって規定されるのかを明らかにするものである。政党はイデオロギーを有する一方、政権与党であることによる選好形成の変化を経験するものであり、本研究ではこの点を分析対象とした。定量分析では多国間比較分析として、また質的分析としては日本とドイツを対象に、与党になると選好が変化することがわかった。とりわけ、1998年時のドイツ緑の党と、2005年からの日本民主党における政策選好変化は明らかであり、政党イデオロギーが左右やGAL-TANといった既存の軸のみならず、与党医なることで変化することを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は海外派兵を巡る政府の政策について、政党政治の観点から新たな分析を加え、海外派兵の増減が何によって規定されるのかを明らかにした。政党はイデオロギーを有する一方、政権与党であることによる選好形成の変化を経験するものであり、与党と野党で大きく選好形成過程が変化することが明らかになった。こうした発見は、政党のイデオロギーが左右軸やGAL-TANといった既存の軸以外でも導出できることを示唆している。またこのことは、社会的にも、政権交代の新しい意義を見出すものであると考えられる。政権与党のイデオロギーが変化しても、政策の継続性が見られることで、国内でのコンセンサス形成に資すると考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study adds a new analysis of the government's policy regarding overseas deployment from the perspective of party politics, and clarifies what determines the increase or decrease in overseas deployment. While political parties have ideologies, they also experience changes in preference formation as a result of being the party in power.

In the quantitative analysis, which was conducted as a multinational comparative analysis, and in the qualitative analysis, which was conducted for Japan and Germany, it was found that preferences change when a party becomes the ruling party. In particular, the change in policy preferences of the German Green Party in 1998 and the Democratic Party of Japan (DPJ) since 2005 is clear, indicating that party ideology changes not only along existing axes such as left-right and GAL-TAN, but also after becoming the ruling party.

研究分野：国際関係論

キーワード：国際政治 外交政策 日本 ドイツ 海外派兵

## 1. 研究開始当初の背景

従来、海外派兵を巡る議論では文化論が注目を浴びてきた。とりわけ注目されたのが、第二次世界大戦後、経済力を大幅に回復させながらも派兵に慎重であり続けた日本とドイツ連邦共和国である。こうした慎重な派兵政策は両国の文化に根差すと考えられてきた。しかし、冷戦が終結し、連合軍による武力行使が発生すると、こうした消極性が批判されるようになった。批判を受けてドイツ連邦軍が派兵人員を大きく増やし、1998年のコソボ空爆にも参加したのに対し、自衛隊は依然として海外派兵には消極的である。こうした両国の現在の差異は、これまで注目を浴びてきた文化論では説明ができない。本研究では両国の海外派兵政策を政党政治、特に野党の役割に注目して分析を進め、政策変化の因果を明らかにする。

## 2. 研究の目的

本研究は海外派兵を巡る政府の政策について、政党政治の観点から新たな分析を加え、海外派兵の増減が何によって規定されるのかを明らかにするものである。海外派兵と政党政治をめぐる研究は、その党派性に注目したものが多く、Rathbun(2004)は政党の左右イデオロギーに着目し、これが海外派兵に関する選好を分けると分析した。彼によると、派兵の成功体験がある英国や米国では左派が海外派兵に積極的になるが、海外派兵に忌避感が強いドイツのような国ではむしろ右派が積極的になると主張する。一方、政党がどのように海外派兵をフレーミングするか研究したWagner(2020)は、右派政党は「国益」や「敵のイメージ」、左派・極左政党は「スパイラルモデル思考」、国際主義的伝統のある左派政党は「国際法」を用いてフレーミングをする傾向があると指摘する。いずれも政党のイデオロギーが海外派兵の選好を決定すると考えられているが、ここでは各政党が与党であるか、野党であるかという重要な視点が抜け落ちている。政党は確かにイデオロギーに影響されるが、一方で、政権と与党であることによる選好形成の変化を経験するものであり、本研究ではこの点を分析対象とする。

## 3. 研究の方法

本研究は定量分析と定性分析の双方を組み合わせた研究方法をとる。まず、定量分析としては、各政党が与党か野党か、さらには与党経験前か後かを判別した上で、海外派兵に関する選好が変化するかを分析する。手法としてはDID(差分の差分法)を用いる。また、質的方法では、日本とドイツを例に、両国で各政党が政権時と野党時でどのように選好を変化させてきたかを過程追跡し、明らかにした。過程追跡では、政党アーカイブも訪れ、会派の議事録のみならず、政党会派内での意見表明なども分析し、どのような経緯を辿って各党内部で選好が決定されているのかを明らかにした。

#### 4 . 研究成果

与党になることで政党の政策選好が変化することの定量分析については、多国間比較分析として現在も取り組んでおり、論文発表を目指している。また質的分析としては、与党と野党で大きく選好形成過程が変化することが明らかになった。とりわけ、1998 年時のドイツ緑の党と、2005 年からの日本民主党における政策選好変化は明らかであり、政党のイデオロギーが左右軸や GAL-TAN といった既存の軸のみならず、与党か野党かによっても変化することを明らかにした。こうした発見は、社会的にも、政権交代の新しい意義を見出すものであると考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Ogawa, Hiroki, Masako TANAKA, Asako TAKASHIMA, Yu AJISHI, and Takayoshi UEKAMI.	4. 巻 39
2. 論文標題 “Examining Institutional Effects on Issue Salience in Multi-Level Settings: A Comparative Study of Party Manifestos”	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『選挙研究』	6. 最初と最後の頁 5-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Asako Takashima	4. 巻 96
2. 論文標題 Apology in Japanese Foreign Policy: Why an Apology is Made by a State Leader	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 法学研究（大山耕輔教授退職記念論文集）	6. 最初と最後の頁 466-490
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 遠藤乾・高島亜紗子	4. 巻 -
2. 論文標題 国際秩序の転換期における日本の秩序形成戦略 台頭する中国と日米欧の新たな協調	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本国際問題研究所編「戦禍のヨーロッパ-日欧関係はどうあるべきか-」	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 遠藤乾・高島亜紗子	4. 巻 -
2. 論文標題 政策的含意・提言	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本国際問題研究所編「戦禍のヨーロッパ-日欧関係はどうあるべきか-」	6. 最初と最後の頁 159-167
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 高島亜紗子・中村長史
2. 発表標題 民主主義国の海外派兵 - 対内正当化『成功』要因・試論
3. 学会等名 グローバル・ガバナンス学会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------